

オピニオン このコーナーでは毎回院長の考えや想いをお伝えしていきます

非医療者に知ってもらいたい医療10カ条

院長 加藤 奨一



院長 加藤 奨一

先日ある方におもしろいインターネット・サイトを教えてもらいました。「医療崩壊を少しでも食い止めたい一般患者の会」というサイトです。その中に「非医療者に知ってもらいたい医療10カ条」というのが載っています。以下です。

- ①医療は不確実です。医療には限界があります。医師がどんなに手を尽くしても亡くなることはあります。
- ②医師はエスパーではありません。症状をきちんと伝える為に「いつから、どこがどう痛いのか」等を予めメモにまとめておきましょう。
- ③医師は敵ではありません。敵なのは病気であり、医師は共に戦う仲間です。
- ④医師は病気を治すわけではありません。医師は病気を治す手伝いをするのです。
- ⑤新聞やニュースの医療記事を鵜呑みにしないようにしましょう。偏向報道の場合があるので出来たらネット等で調べ、多角的に考えましょう。
- ⑥「たらい回し」「受け入れ拒否」という言葉は使わないようにしましょう。これらは人手・設備不足等で受け入れ能力がないために起こります。つまり「受け入れ不能」「受け入れ困難」の方が適切です。
- ⑦「ベッドが満床」のベッドは物理的なベッド以外に、酸素マスクや看護する人員等含んだ設備と言う意味があります。つまり「ベッドが満床」＝「(物理的な)ベッド・設備・人員すべて受け入れる余力が無い」んです。それから“ベッドが無ければソファに寝かせて治療”は重症患者ではとてもできません。

⑧「一般人だからわからない」と言わずに調べるくせをつけましょう。自分の病気についても人任せにしないで正しい知識をつけましょう。

⑨時間外の救急外来に平日昼間のような設備や人員は望めません。コンビニ受診は控えましょう。

⑩医療崩壊について調べてみましょう。医療崩壊、医師不足や受け入れ不能事件の一因は我々国民にもあることを自覚し、何をしたらいいのか建設的に考えていきましょう。我々非医療者、医療者が協力し合わなければ医療崩壊はくい止められません。

【追記】私は一般人です。非医療者なりに医療について調べたこと、患者として感じたことをまとめたのがこの10カ条です。医療崩壊を少しでもくいとめるために多くの非医療者に知ってもらいたいのです。以上です。

これ以外にも、「医療Q&A」や、「他ブログさまの紹介」の中でリンクされている医療を取り上げたインターネット小説のサイトもなかなかの出来映えです。日本の医療崩壊後の世界を描いた「菊花病院2018」「地中海病院2018」は圧巻でした。同一作者の書いた「ドクターズファミリー ケース1～4」も秀逸です。

こうしたことを非医療者によく理解してもらえると、日本の「医療崩壊」もくい止められるのではないのでしょうか。